

第197回地震予知連絡会重点検討課題について

タイトル「世界の巨大地震・津波」

趣旨説明者 東京大学 地震研究所 佐竹健治

第190回地震予知連絡会以降、重点検討課題として、2011年東北地方太平洋沖地震についての検討ならびに、「プレート境界に関する我々のイメージは正しいか？」と題して、南海トラフ・南西諸島海溝、千島海溝、相模トラフ・首都圏直下地域について検討してきた。東北地方太平洋沖地震のようなM9クラスの巨大地震は日本ではこれまで記録されていなかったが、世界では20世紀以降数回発生している。また、最近の古地震学的研究からは、それ以前にも世界中の沈み込み帯で繰り返し発生していることが明らかになってきている。

第197回地震予知連絡会 重点検討課題の検討では、世界各地の沈み込み帯における巨大地震と津波に関する研究成果（地震学的な研究ならびに古地震学的研究）をレビューするとともに、M9クラスの巨大地震の断層パラメーターや繰り返し間隔に関する共通性を見出すため最大マグニチュード、断層パラメーターのスケーリング、プレート間カップリングについて、地域によらない共通性を抽出することを目的とする。